

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
富山情報ビジネス専門学校		昭和51年4月1日		浦城 尚武		〒 939-0341 (住所) 富山県射水市三ヶ576 (電話) 0766-55-1420		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人浦山学園		昭和41年12月26日		浦山 哲郎		〒 939-0341 (住所) 富山県射水市三ヶ613 (電話) 0766-55-3937		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
商業実務	商業実務専門課程		Webクリエイター学科		令和 5(2023)年度	-	-	
学科の目的	新たな価値を生み出すコンテンツを制作し、発信できるクリエイティブ人材を育成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	主な教育内容としてはIT基礎知識、Webコンテンツ制作、SNSデザインを通して、企業と連携した商品開発や販促活動の経験を積み、即戦力を育てる内容としている。 <取得可能資格> CG-ARTS WEBデザイナー検定、サーティファイ Illustratorクリエイター能力認定試験、色彩検定、ITパスポート							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,845 単位時間	150 単位時間	1,650 単位時間	45 単位時間	単位時間	単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
30 人	36 人		0 人		0 %	13 %		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 14 人							
	■就職希望者数(D) : 14 人							
	■就職者数(E) : 14 人							
	■地元就職者数(F) : 12 人							
	■就職率(E/D) 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 86 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 100 %							
	■進学者数 0 人							
	■その他							
	(令和 6 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) Web制作:(株)キノトロープ 印刷:とうざわ印刷工芸(株) 映像:(株)アートエレクトロン 一般企業(Web部門、広報部門):(株)光岡自動車、オダケホーム(株)、富山県総合警備保障(株)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載							
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	https://www.bit.urayama.ac.jp/subject-course/mb-biz							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数				1,845 単位時間			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				30 単位時間			
	うち必修授業時数				1,425 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				30 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間			
	(B:単位数による算定)							
	総単位数				単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位			
	うち必修単位数				単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位			
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				1 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				0 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

委員からいただいた意見をもとに、学科間にて現状と課題を洗い出し、次年度カリキュラム策定において検討する。検討した内容を校長・副校長とともに再度検討し、より良い教育プログラムとなるよう進めている。また、企業アンケートでの意見や実習、または企業連携している企業担当者からの意見・要望を踏まえ、職業現場で必要となる技能・スキルを学ぶことができる授業体系を構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は学校長、その他役職者(課長以上)における会議下に置く。(運営会議)「カリキュラム作成マニュアル」において、「教育課程編成委員会での検討内容が議論されていること」と明記されている。「カリキュラム策定フロー」において、カリキュラムの振り返りに「振り返りには教育課程編成委員会での検討結果を反映させる」と明記され、カリキュラム策定開始と完成には、「教育課程編成委員会での検討結果を実践的かつ専門的なカリキュラム作成のための検討材料とする」と明記されている。「カリキュラム運用フロー」において、「＜教育課程編成委員会開催＞ 確認・実施事項」として明記されている。カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項、各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項、教科書・教材の選定に関する事項、その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項を審議し学科に提案する。これらの意見は学科間において常勤、非常勤とヒアリングをしたのち、運営会議(学内役職者)にて提案する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
吉田 絵美	富山県総合デザインセンター 主任研究員	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
寶里 均	有限会社サイバースクエア 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(3年)	③
高野 直人	富山情報ビジネス専門学校 Webクリエイター学科 学科長		—
向谷内 由佳	富山情報ビジネス専門学校 Webクリエイター学科 教員		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月25日 15:30～17:00

第2回 令和7年2月4日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

県内のデザイン分野の新卒募集は依然として厳しい状況。都市部の企業とのネットワークを作り、希望する学生がチャレンジできるような環境を作っていくことが必要。作品は大学生と遜色ないが、自己PRやプレゼン力ではどうしても劣ってしまうため課題である。次年度カリキュラムにて引き続き企業連携プロジェクトを実施し、グループで活動するが作品は個人として制作させることで質の向上を図る。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業現場において必要とされるスキルの習得という方針に基づき、最新の業界動向を反映したカリキュラムを構築し、企業と連携したプロジェクト型授業や現場実習を実施している。これにより、学生が実務的な知識と技術を体験的に学び、卒業後に即戦力として活躍できる力を養成している。また、定期的に業界関係者を招き、講演やアドバイスを受けることで、教育内容の質を高めていく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

当該実習および演習授業において、授業概要立案、実施、評価に至るまで連携先と相談し実施している。

年度開始前に、契約書を取り交わし、授業概要を作成確認し、実施後の成績評価まで双方の確認をおこなっている。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

富山情報ビジネス専門学校により実践的な職業教育の質を確保するため、自己点検評価報告書に基づき、教育活動の観察や意見交換をおこなう。当委員会にて得られた知見は教職員全員が参加する会議にて共有され、早急に改善が必要と学校長が認めた場合はプロジェクトチームを立ち上げ、迅速な対応を目指す。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	基準 1 教育理念・目的・人材育成像 1-1-1 教育理念・目的・人材育成像は定められているか 1-1-2 学校における職業教育の特色は何か 1-1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	基準 2 学校運営 2-1-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2-1-2 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 2-1-3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか 2-1-4 人事・給与に関する制度は整備されているか 2-1-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 2-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図れているか
(3)教育活動	基準 3 教育活動 3-1-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 3-1-2 学科等のカリキュラムは体系的に構成されているか 3-1-3 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-1-4 資格試験の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか 3-1-5 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
(4)学修成果	基準 4 学修成果 4-1-1 就職率の向上が図られているか 4-1-2 資格取得率の向上が図られているか 4-1-3 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	基準 5 学生支援 5-1-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 5-1-2 学生相談に関する体制は整備されているか(中途退学含む) 5-1-3 学生の生活環境への支援は行われているか 5-1-4 保護者と適切に連携しているか 5-1-5 卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	基準 6 教育環境 6-1-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか 6-1-2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか 6-1-3 防災に対する体制は整備しているか
(7)学生の受入れ募集	基準 7 学生募集 7-1-1 学生募集は適正に行われているか 7-1-2 学生募集において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか 7-1-3 学生納付金は妥当なものになっているか
(8)財務	基準 8 財務 8-1-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか 8-1-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか 8-1-3 会計監査が適正に行われているか 8-1-4 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	基準 9 法令遵守 9-1-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-1-2 個人情報に関しその保護のための対策が執られているか 9-1-3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-1-4 自己評価結果を公表しているか
(10)社会貢献・地域貢献	基準 10 社会貢献・地域貢献 10-1-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 10-1-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
(11)国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を設置し得られた評価結果や委員の知見についてはその内容を全教職員で共有し、学校HPの情報公開にも掲載している。その後、カリキュラム策定方針を検討する際に判断材料として活用し、次年度に向けた取り組みをより一層高度且つ外部意見を取り入れた内容にしている。さらに、外部委員から「地域企業との協働を強化し、現場での実践力を高めるべき」との意見を受け、SNS広告やポスター作成などにおいて県内企業との連携を深めるプログラムを実施。これにより、地域ニーズに応じた人材育成を実現している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
吉岡 隆一郎	株式会社文苑堂書店 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地元企業
堀田 喜久男	富山情報ビジネス専門学校同窓会 会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
奈呉江 教典	高岡龍谷高等学校 元校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校関係者
中島 位興	富山情報ビジネス専門学校同窓会 後援会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者
室谷 千秋	富山情報産業協会 専務理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
坂井 彦就	富山県ホテル・旅館生活衛生同業組合	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
中島 勝喜	株式会社ホテル黒部 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
前田 伸明	富山県済生会富山病院 事務次長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
中野 健司	公益社団法人 富山県建築士会 元会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者
吉田 絵美	富山県総合デザインセンター 主任研究員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	その他有識者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox/information>

公表時期: 令和6年5月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業との関係づくりにおいては企画推進部(就職関連部署)にて進めている。当学園の教育の理想に掲げているように「地学一体による地域課題解決拠点としての教育研究機関」を目指している。教務においても各分野の企業と連携を深め、地域の課題に対して積極的に考え、行動する人材育成を方針としている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	基準 1 教育理念・目的・人材育成像 1-1-1 教育理念・目的・人材育成像は定められているか 1-1-2 学校における職業教育の特色は何か 1-1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
(2)各学科等の教育	基準 2 学校運営 2-1-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか 2-1-2 事業計画に沿った運営方針が策定されているか 2-1-3 運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか 2-1-4 人事・給与に関する制度は整備されているか 2-1-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか 2-1-6 情報システム化等による業務の効率化が図れているか
(3)教職員	基準 3 教育活動 3-1-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか 3-1-2 学科等のカリキュラムは体系的に構成されているか 3-1-3 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-1-4 資格試験の指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか 3-1-5 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
(4)キャリア教育・実践的職業教育	基準 4 学修成果 4-1-1 就職率の向上が図られているか 4-1-2 資格取得率の向上が図られているか 4-1-3 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)様々な教育活動・教育環境	基準 6 教育環境 6-1-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか 6-1-2 学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか 6-1-3 防災に対する体制は整備しているか
(6)学生の生活支援	基準 5 学生支援 5-1-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか 5-1-2 学生相談に関する体制は整備されているか(中途退学含む) 5-1-3 学生の生活環境への支援は行われているか 5-1-4 保護者と適切に連携しているか
(7)学生納付金・修学支援	基準 7 学生募集 7-1-1 学生募集は適正に行われているか 7-1-2 学生募集において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか 7-1-3 学生納付金は妥当なものになっているか
(8)学校の財務	基準 8 財務 8-1-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか 8-1-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか 8-1-3 会計監査が適正に行われているか 8-1-4 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)学校評価	基準 9 法令遵守 9-1-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-1-2 個人情報に関しその保護のための対策が執られているか 9-1-3 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-1-4 自己評価結果を公表しているか
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	基準 10 社会貢献・地域貢献 10-1-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 10-1-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.bit.urayama.ac.jp/bitbox/information>

公表時期: 令和7年4月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 W e bクリエイター学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			ITメディア概論ⅠA	IT技術・IT管理・ネットワーク・データ分析・セキュリティ・IT最新技術といった実務に必要な知識を学ぶ。ITパスポート試験の取得を目指す。	1・前	60	4	○			○			○	
2	○			ITメディア概論ⅠB	IT技術・IT管理・ネットワーク・データ分析・セキュリティといった実務に必要な知識を学ぶ。ITパスポート試験の取得を目指す。	1・後	60	4	○			○			○	
3			○	プレゼンテーションⅡA	パワーポイントの使い方から文章のまとめ方や訴える力など、プレゼンテーションに必要な基本的知識を身に付ける。	2・前	30	1		○		○			○	
4	○			カラーコーディネートⅠA	色彩理論の基本を学び、デザインに必要な色彩の考え方や発想を身につける。	1・前	60	2		○		○			○	
5	○			カラーコーディネートⅠB	色彩理論の基本を学び、デザインに必要な色彩の考え方や発想を身につける。	1・後	60	2		○		○			○	
6			○	Webデザイン技術ⅡA	Webを表現手段とするための知識と技術を学び、実践する。	2・前	60	2		○		○			○	
7	○			デザイン概論ⅠA	ビジュアルコミュニケーションに必要とされるデザインの基礎を学ぶ。それを元にWEBデザイン・コンテンツデザイン・グラフィックデザイン・映像デザインのクオリティ向上につなげる。	1・前	30	2	○			○			○	
8	○			コンテンツデザインⅠA	デザイン専用ソフトウェアの操作方法を学び、仕事で扱う様々な画像や印刷物の作成をおこなう。	1・前	60	2		○		○		○		
9	○			コンテンツデザインⅠB	デザイン専用ソフトウェアの操作方法を学び、仕事で扱う様々な画像や印刷物の作成をおこなう。	1・後	60	2		○		○		○		
10	○			IPデザイン実践ⅡA	目的に合わせたデザイン表現を学び、クライアントワークを想定した様々なデザイン制作をおこなう。	2・前	60	2		○		○		○		
11	○			IPデザイン実践ⅡB	デザイン技術の実践と、学びを可視化しそれを伝えるための卒業成果作品を制作する。	2・後	60	2		○		○		○		
12	○			Web演習ⅠA	HTML、CSSに関する基本的な知識を学び、様々なモバイルに対応するWeb作成スキルを身につける	1・前	60	2		○		○			○	
13	○			Web演習ⅠB	HTML、CSSに関する基本的な知識を学び、様々なモバイルに対応するWeb作成スキルを身につける	1・後	60	2		○		○			○	
14	○			Web演習ⅡA	各種ビジネスを想定したWebサイト、モバイルサイト作成を行う。	2・前	60	2		○		○			○	
15	○			Web演習ⅡB	卒業制作活動のため、自分が受注した案件であるビジネスコンテンツとしてのモバイルサイト作成をおこなう。	2・後	60	2		○		○			○	
16	○			ムービー制作ⅠA	様々な機器による撮影と編集技術を学ぶ。	1・前	60	2		○		○			○	○

17	○			ムービー制作ⅠB	撮影と編集技術の実践活動として、コンテスト応募と学年課題制作をおこなう。	1・後	60	2		○		○			○	
18	○			ネットムービー演習ⅡA	目的に合わせた映像を作成し、有効利用する技術を学ぶ。	2・前	60	2		○		○			○	
19	○			ネットムービー演習ⅡB	メディアの特性や目的に合わせた映像の作成と発信を学び、効果的なコンテンツを制作する手法を身につける。	2・後	60	2		○		○			○	
20	○			IPデザイン実践ⅠA	ポートフォリオ作成のため、企画制作をおこなう。1年次の学年成果物を完成させる。	1・後	30	1		○		○			○	
21	○			ECビジネス演習ⅡA	Webメディアを利用したEC活動の実践を通して、実施に伴う手続きを理解し関係法令等を学ぶ。また運用における企画戦略手法や分析力を磨く	2・前	30	1		○		○			○	
22	○			ECビジネス演習ⅡB	Webメディアを利用したEC活動の実践を通して、実施に伴う手続きを理解し関係法令等を学ぶ。また運用における企画戦略手法や分析力を磨く	2・後	30	1		○		○			○	
23			○	SNSプランニングⅡA	企業や団体等と連携し、質向上や課題解決するための活動をおこなう。これを通して効果的なプレゼンテーションや情報発信、レビューと報告について現場で学ぶ。	2・前	60	2		○		○		○		
24			○	SNSプランニングⅡB	企業や団体等と連携し、質向上や課題解決するための活動をおこなう。これを通して効果的なプレゼンテーションや情報発信、レビューと報告について現場で学ぶ。	2・後	60	2		○		○		○		
25	○			SNSプランニングⅠA	地域の課題解決やイメージ向上をテーマとし、専門分野知識やスキルを活かした実践活動を行う。活動を通してチーム活動のやり方やスケジュール管理、報告手法などビジネスの基本を身につける。	1・前	60	2		○		○		○		
26	○			SNSプランニングⅠB	地域の課題解決やイメージ向上をテーマとし、専門分野知識やスキルを活かした実践活動を行う。活動を通してチーム活動のやり方やスケジュール管理、報告手法などビジネスの基本を身につける。	1・後	60	2		○		○		○		
27	○			卒業制作ⅡA	コンテンツ制作手法と表現方法、活用事例を学び、それらを効果的卒業制作に生かす手順について研究する。	2・前	60	2		○		○			○	
28	○			卒業制作ⅡB	企業活動に要求される顧客やビジネスパートナーとの関係やその利益を生み出す仕組みについて、具体的に検討し、卒業制作活動の実践を通して、それについての回答を導き出す。	2・後	60	2		○		○			○	
29	○			インターンシップⅡA	授業での学びを活かし、ビジネス現場での業務体験を行う。	2・後	45	1			○		○	○		
30			○	就職支援ⅠA	「将来の仕事や人生についてどのように考えたら良いか」「将来の目標を実現するためには何が必要か」等、キャリアを考える上でヒントや気づきを得られるよう、様々な取り組みを行う。就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。	1・前	30	1		○		○		○		
31			○	就職支援ⅠB	「将来の仕事や人生についてどのように考えたら良いか」「将来の目標を実現するためには何が必要か」等、キャリアを考える上でヒントや気づきを得られるよう、様々な取り組みを行う。就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。	1・後	30	1		○		○		○		
32			○	就職支援ⅡA	「将来の仕事や人生についてどのように考えたら良いか」「将来の目標を実現するためには何が必要か」等、キャリアを考える上でヒントや気づきを得られるよう、様々な取り組みを行う。就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。	2・前	30	1		○		○		○		
33			○	就職支援ⅡB	「将来の仕事や人生についてどのように考えたら良いか」「将来の目標を実現するためには何が必要か」等、キャリアを考える上でヒントや気づきを得られるよう、様々な取り組みを行う。就職に向けて、必要な準備を段階的に進めていく。	2・後	30	1		○		○		○		
36			○	表現力ⅠA	コミュニケーション授業や演劇を学び、自己表現力や社会性を身に付ける	1・前	30	1		○		○		○		
37			○	総合演習ⅠA	専門能力、非認知能力、社会人スキル向上を目的とし学科でさまざまな活動をおこなう。	1・後	30	1		○		○		○		

38			○	総合演習ⅡA	専門能力、非認知能力、社会人スキル向上を目的とし学科でさまざまな活動をおこなう。	2・後	30	1		○		○		○		
合計					38 科目			66 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 62単位以上取得 必修科目を取得していること		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 講義：15時間 演習30時間 実習45時間 の計算方法のもと算出している。 「必修科目」1425単位時間+「自由選択科目」から合計275時間以上履修すること。		1 学期の授業期間	15 週

- （留意事項）
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。